

神への祈り

「こうしてペテロは牢に閉じ込められていたが、教会は彼のために、熱心な祈りを神にささげていた。」 (使徒12:5)

教会は、ペテロのために神に熱心に祈り続けていました。ここで第一に注目したい点は「神に」ということばです。誰でも「祈りは神に対してするものである！」と思っています。しかし残念ながら、祈っていながら、神にささげられていない祈りの方が多いのです。

真実な祈りとは、自分の意志で、神に確信をもって近づいていくものです。案外、祈りながら、神様より祈る事柄・祈りの課題に心を奪われ、神様の存在への思いが失われているのではないのでしょうか。私たちは臨在の神の御前に顔と顔を合わせて祈っているのでしょうか？

聖書の学び

I、神に受け入れられる祈り

1、初代教会のメンバーにとって、神様はどのような方でしょうか。

(教会=エクレシア——世から召し出され、救い出された者たち)

①救い主イエス・キリストを遣わされ、十字架による救いを与えられた父なる神様

②十字架による罪の赦しを与えられ、信仰により自分を義として下さった。

③もうすぐ救い主イエス様が再臨される。この世の全てを支配されるイエス様によって、神の国が成ることを待ち望んでいた。(使徒1:11)

2、ペテロのための祈りは、どのような祈りだと思いますか。

①以前のように(使徒5:17~19)、不思議な神の御手により、ペテロが救い出されることを願う祈り。

②ヤコブのように、たとえペテロが死ぬような事になっても、キリストを証しする
ときが与えられることを願う祈り。(1ペテロ3:15)

③神様のみこころが成るように、ゆだねる祈り。(マタイ6:10)

Ⅱ、神の臨在の前の祈り

(ヤコブ4:8~10)

1、祈るとき、あなたは何を思っていますか？

あるとき祈祷会で、皆と一緒に順番に祈ろうとしていました。

牧師先生が祈りに入る前に皆に言いました。

「祈りのとき、誰かが祈っているとき、あなたは何を思っていますか？

祈りのときは、自分自身が神の臨在の前にいることを確信し、心の中でひたすら
神様のことを思うようにしましょう。神様への願いや祈祷課題を思うのではなく、
神様ご自身の事を思うようにしましょう」

この日から2、3日後、熱心なクリスチャンの青年が、「先生の単純なあの祈りの勧めに
よって、僕は今までにない体験を持つことになりました」と、喜んでいました。

2、祈りの中で、自分は神様と語るのだと自覚しながら祈りましょう。

3、神様がこの祈りを聞く耳を持っておられること。この願いを聞き、 答えて下さるという確信を持ちましょう。

まとめ

神様の臨在の前で祈る事を通して、主は祈りに答えられる。